

まち会だより

発行：特定非営利活動法人 調布まちづくりの会

〒182-0023 東京都調布市染地 3-1-19 ハ 3-510・TEL&FAX:0424-88-4022

e-mail : machikai@annie.ne.jp http://www.annie.ne.jp/machikai/

vol.18

06 秋号のミドコロ！

特集 調布まちづくりの会 10周年

調布市の都市計画マスタープランづくりをきっかけに、市民それぞれが、思いを行動にしながら、いっしょに進んでいる「調布まちづくりの会」もおかげさまで10周年を迎えることとなりました。これからも「より良いまち」づくりに寄与できるよう、奮闘していく所存です。理事長の話、活動を展開している会員、元会員の寄稿、12/10(日)に開催する10周年記念の講演情報などを掲載しています。(2-4ページ)

まちのバリアフリー部会 活動再見

まちのバリアフリー部会はNPO法人調布まちづくりの会の自主事業活動のひとつです。調布の京王線連続立体交差事業にともなう中心市街地のまちづくりをバリアフリーやユニバーサルデザインという視点でまちづくり活動をしています。その活動を今回は掲載いたします。(5-6ページ)

映画のまち調布」部会 映画『月光の夏』上映会の報告

「映画」をキーワードとして、調布のまちづくりにどう寄与できるかを考えている部会です。本号では、調布市が毎年8月行っている平和祈念事業の一環として開催した本年8月17日の映画『月光の夏』上映会を報告します。(7-9ページ)

景観部会 活動再見

調布の景観をどのように捉え、つくり保存していくかを自分自身の体を使ってまちを歩き、検討しています。その活動をふりかえります。(10~11ページ)

おしゃべりサロン相互塾」のひとづくり、まちづくり

相互塾では毎月最終月曜日(原則)に主に調布市在住の方を講師にお招きして公開講座+ディスカッションを行なっています。7年目に入ったおしゃべりサロン「相互塾の7月末/第78回から10月末/第81回、「数学おあそびサロン」「午後のティーサロン等の報告のほか、「調布まちかど博物館(エコミュージアム)」サロン計画などを掲載しています。(12~17ページ)

NPO 法人市民まちづくり会議「むさしの」との交流会の報告

10月28日(土) 調布市市民プラザあくろす3階研修室で、武蔵野市でまちづくり活動をしている「NPO 法人市民まちづくり会議・むさしの」の皆さんと交流会をおこないました。(17ページ)

これからの活動などのインフォメーションは、最後のページです



設立 10 周年を迎えて

大久保喜正

特定非営利活動法人 調布まちづくりの会 理事長

「まち会」が設立 10 年たちました。私にとっては、平凡な感想ですが、アッという間のような気がしています。しかしその間の理事の方々をはじめ会員の皆さんの活躍には目を見張られるばかりでした。例をあげますと、「おしゃべりサロン相互塾」を中心にして「午後のティーサロン」、「数学おもしろサロン」、「うたごえサロン」(これは「まち会」から独立しました。)などの“サロン”展開、「バリアフリーのまちづくり」部会、「映画のまち調布」部会、「調布の景観」部会等など。いずれも有能なリーダーのもとまじめな会員の方々によって着実に成果を積み上げていくさまを目にすることができるのは本当にうれしいことです。

私はといえば、皆さんの中にまじって、いささかお邪魔虫のきらいではあるのですが、ワイワイガヤガヤ勝手なことをしゃべっているだけです。でも、私にとって「まち会」に出席し皆さんと話しをしたり、まち歩きなどに参加したりすることが本当にたのしいのです。すこし大げさですが、私の人生の中で、今が一番心豊かで、充実しているときなのです。

「まち会」はこれからも私たちの目標である〈まちづくり〉にむかって、ゆっくりと着実に歩んでいくことでしょう。私も会員の皆さんは無論のこと、志を共にする市民の方々、行政もまきこんで一緒に、楽しくやっけていくつもりです。

今私が考えていることは、ここ数年、「市民参加」とか、「行政と市民との協働」などの言葉が、目にも耳にも入って来るようになりました。これらの言葉は、まことに心地よい響きをもったことばです。しかし、私は「市民参加」や「協働」というものの実態を目にしたことも、経験したこともありません。この言葉が、現実のものとして、体感できるようになるよう努力していこうと思っています。

調布まちづくりの会 設立 10 周年記念講演

新しい居場所の創造に挑戦する～私のまちづくり入門～

日時：2006 年 12 月 10 日（日） 午後 6：30～7：30

入場無料（終了後懇親会あり・500 円）

場所：調布市文化会館たづくり 12 階 大会議場

講師：森下政信 調布まちづくりの会副理事長

主催：NPO 法人調布まちづくりの会

後援：調布市



10 周年で思うこと + 浜松報告プロローグ

大和田 清隆
 静岡大学情報学部客員教授
 (財)都市防災研究所
 (前、浜松まちづくりセンター長)

先日某氏に「10周年」と聞いて、感慨深いものがこみ上げてきた。

思い起こせば10年前、当時調布市都市計画課は都市計画マスタープラン(以下、都市マス)の策定にあたり、市民参加の手法について模索していた。そのような中、市民参加で行うとの市都市計画課の呼びかけに応じた市民の皆さんが集まり、進め方の議論をした。その席では、市民からは策定にあたって市民意見をちゃんと計画に反映することを保障すべきであるという主張があった。今となっては良くあることと捉えられているが、それまでの行政不信からか、その他のことでも議論はなかなかかみ合わなかった。とりあえず毎週都市計画課会議室を開くから、議論を継続しようということになった。それが後にサロン方式と呼ばれた参集のしくみである。サロンで集まって、策定の主体となる市民の集まりを「調布まちづくりの会」とし、ゆるやかなルールを決めたのが、本会の母体であった。その時の会の規則に 発言を遮らず、自由な議論とする 相互の意見の相違点を認めながらも、合意形成に努める があり、これは現在でも受け継がれている。

そしてその後80回近く集まり、ワークショップを随所に導入した成果が、全国的にまれに見るきめ細かい市民参加と称された調布市都市計画マスタープランである。当時は先駆的な協働による計画策定と称された活動であったが、その成果のもう一つが、参加市民の活動が継続され、後にNPO法人となった現在の調布まちづくりの会である。

今更昔の思い出を語るまでもないのだが、それには理由がある。調布で試みられた参加のプロセスは、その後常識化するだろうと当時考えていたが、それはある意味当たった。しかし一方で最近 アリバイづくりと思われる参加プロセスが後を絶たない 近年効果を先取りして行政主導のNPO設立が増加している という現象が目立つのである。我々の活動やその後の各地の事例がお手本(?)となり、参加のプロセスが形式化したことが を誘発することになったのかもしれないし、参加の成果としてアテにするあまり、拙速によって となるのかもしれないと自虐的な思いに駆られることもしばしばである。NPO法人を設立し(あるいは設立させ) 事業化するということが特に指定管理者制度による公共施設管理、タウンマネージメントの分野で多く見られ、組織運営上の問題を引き起こしているケースは見るに忍びない。

さて、筆者は調布の皆さんとの活動や市民参加の経歴から浜松まちづくりセンターの初代センター長として、初の民間からの登用により4年半勤務した。活動の内容の紹介はまた別の機会に譲るとして、ひとつだけエピソードをご紹介します。赴任した直後のこと。ほとんどの方が初対面なので「まちづくりセンターです」と名刺を差し出すと、どうもおかしい。ちょっと怪訝な顔をする人がいるのである。特に女性。どうもおかしい。すぐにその訳が分かった。ある女性NPO活動家が「私はハードは扱いません」と返事をしてくれたのである。すなわち、浜松で「まちづくり」と言う(と書く)ことは土地区画整理、再開発のことを意味すると思っている人が多いのである。「あんたのところは”まちづくり”をやらなければだめだ」という意味は「区画整理をやらなさい」という使い方を長年してきたのである。慌てて「まちづくり」を再定義するとともに、実践によって理解していただいたことは言うまでもない。

浜松ではたくさんの地域の方々、市民活動団体とお付き合いし、私なりの支援をさせていただいた。随所で調布の皆さんと共有したいいろいろな活動が起きたこととお知らせし、また新たなステップとして会の皆さんと活動を共にしていきたいと、気を新たにしている。



ゆたかな出逢いの場・調布まちづくりの会

大 脇 正 昭

長野市市民公益活動センター長

調布まちづくりの会 10 周年おめでとうございます。あのときから早 10 年が経つんですね。

90 年に市民主体のまちづくりをすすめるよう、「調布市民フォーラム」をスタートさせ、そこに参加されていた井上さんが、出向先から戻り、都市計画課で「調布市都市計画マスタープラン」策定を担当、市民参画の元にすすめるということを決意。ならば全面的に支援しようと会を休会し、多くが初期から参画していったことが思い出されます。

96 年 5 月・6 月、市が実施した「まちづくり市民連続講座」の折、確かたづくり映像シアターが会場だったと思いますが、質疑応答になると後ろの席から大きな声で厳しい意見が…。振り返るとぼくよりは若い見知らぬ方で、内心「しめしめ、あそこにもはっきりと声を上げる市民がいる」と。まち会をスタートする段となり、準備会で知り合うことになりましたが、世話人を選ぶときに真っ先に手を挙げられたその人が鉄矢さんでした。

それに準備が膠着状態になったときコンサル会社が担当を入れ替え、調布デビューした大和田さんとチームスタッフ。関わっていく中でおそらくこの人はこの仕事を終えたら脱藩する（会社を辞める）だろうなあ（微笑）とぼくの嗅覚で直感していたとおり、鮮やかハンドリングの後に轉身。計画に欠かせない建築や都市計画の専門性をもって参画されていた沖崎さん、藤山さん、（鉄矢さんも）や NPO から江刺さん、新井田さん、途中から参画された矢嶋さん、大久保さん。市議会議員になっていた大河さんや安部さん。法人後も活動・事業を通してさまざまな方と協働できたと思っています。

さて、たくさんの人たちが参画してできた計画でしたが、新生まち会として活動を継続することとした目的の中に、中間での見直しがあったと思います。さまざまな活動を展開される中、メンバー個々を取り巻く状況も変わり（少なくとも全員 10 歳年を重ねられた）大変かと思いますが、10 年の節目、初心に立ち返り、取り組まれますことを期待します。

それと、まち会の理事として言い続けたことですが、NPO 法人として義務である組織の情報公開。私が長野市に来て市民公益活動を支援しながら一番に感じていることは、法人格をもつ NPO の透明度の極端な低さです。昨年今年と実施した調査結果（Web 公開予定）から、積極的な情報公開に取り組んでいる法人は皆無とっていいでしょう。その調査に照らすと残念ことに現在のまち会も同様といえます。

さまざまなすばらしい活動・事業を展開されるのですから、なおさらのこと NPO 法人として積極的な情報公開に取り組み、社会的責任を果たしていかれませう、併せて期待します。

ぼくにとってもとてもゆたかな出逢いの場であったまち会が 10 年目の節目を迎えるに当たり、みなさまへの感謝とともに、ますますのご活躍を長野の地から祈念いたしております。



いままでの活動記録

2002年

- 7月 定例会 「なぜまちのバリアフリーが必要なのか」
- 8月 定例会 「民間作業所のバリアフリー改修について」
- 9月 定例会 「調和小学校新校舎施設について」
- 10月 定例会 「調和小学校についての質問書とその回答について」
- 11月 定例会 「フィールドワークについて」
- 12月 フィールドワーク 「まちのバリアフリーフォトウォッチング」開催



2003年

- 1月 定例会 「フィールドワークのまとめと今後の部会活動について」
- 2月 定例会 「視覚障害のある方の立場から『まちのバリアフリー』について」
- 3月 定例会 「調布市福祉のまちづくり条例 施設整備マニュアル」をテキストにして具体的な施設や設備について検討
- 4月 定例会 「調布市コミュニティバス東路線試乗体験」について報告。
- 5月
~ 定例会 「調布市福祉のまちづくり条例施設整備マニュアル」検討
- 10月
- 11月 東京学芸大学「ユニバーサル展」にパネル展示参加
- 11月 定例会 「みんなで話そう調布のバリアフリー」企画運営について。
- 12月 同上



2004年

- 1月 定例会 「みんなで話そう調布のバリアフリー」企画運営について
- 1月 フィールドワーク「江戸川区の歩道と車道のゼロ段差体験」開催
- 2月 定例会 「みんなで話そう調布のバリアフリー」企画運営について
- 3月 フィールドワーク「飛田給駅周辺バリアフリーウォッチング」開催
- 3月 定例会 「みんなで話そう調布のバリアフリー」企画運営について
- 4月 同上
- 5月 ワークショップ「第1回 みんなで話そう調布のバリアフリー」開催
- 6月 定例会 ワークショップをふりかえって
- 7月 定例会 これからの活動について
- 8月 定例会 仙川の音楽や芝居小屋のある複合施設についてなど
- 9月 仙川の音楽・芝居小屋のある複合施設についての質問・要望項目
- 10月 「調布市市民プラザあくるすオープン前のバリアフリー視察」を行った。
- 10月 定例会 「提言書」づくりに向けた話し合い。
- 11月 同上
- 12月 イトーヨーカ堂国領店 ユニバーサルデザイン・バリアフリー設備見学会参加



2005年

- 1月
~ 定例会 「提言書」づくりに向けた話し合い。
- 5月
- 5月 フィールドワーク「踏み切りのバリアフリー視察」開催
- 5月
~ 定例会 「提言書」づくりに向けた話し合い。
- 10月
- 10月 「提言書」完成。
調布市役所で提言書のプレゼンテーションをした。
- 10月 定例会 これからの活動について。
- 11月 定例会 フィールドワーク「踏み切りのバリアフリー視察」のまとめ報告。
- 12月 定例会 メンバーからの活動報告とワークショップ開催について。



2006年

- 1月 定例部会 ワークショップ「第2回みんなで話そう調布のバリアフリー」打合
2月 同上
3月 同上
3月 国土交通省主催の「京王線柴崎駅と小田急線代々木八幡の踏切視察」参加。
4月 定例部会 ワークショップ「第2回みんなで話そう調布のバリアフリー」打合
4月 調布市と京王電鉄と当部会との踏切意見交換会を開催。
4月 ワークショップ「第2回 みんなで話そう調布のバリアフリー」開催
5月 定例部会 これからの活動について。
6月 定例部会 これからの活動についてとニュージーランドのホスピスとグループホームの視察報告。
7月 定例部会 4月のワークショップを振り返っての意見交換と調布市交通バリアフリー法基本構想策定委員会の現状について話し合い。
7月 定例部会 調布市交通バリアフリー基本構想策定委員会の報告とこれからの活動及びカナダの老人施設及び施設付属の病院、ホスピスの現状、教会関連の施設と教育機関、老人ボランティアの実情などの視察報告。
9月 定例部会 これからの活動について。
9月 調布市交通バリアフリー基本構想案（全体基本構想案及び重点整備地区基本構想案）へのパブリックコメントを提出。
10月 調布市交通バリアフリー基本構想をテーマに出前講座を開催。



これからの活動予定

- ・バリアフリーのことを伝えるための広報手段として、絵本、パンフレット、リーフレット、ニュースレターなどについて更に検討する。
- ・調布市交通バリアフリー基本構想策定委員会などのうごきについて、行政が市民にアピールできない隙間を、まちのバリアフリー部会がNPOとして担う活動をする。
- ・京王電鉄と市とまちバリ部会で踏切意見交換会したが、その後の検証や再度の意見交換会開催を提案する。
- ・ワークショップで得られた市民の意見を再検討し、活動につなげていく。

Q：調布まちづくりの会は、いつ出来たの？

A：調布市都市計画マスタープランによると「、前略、市では平成7年度（1995年）よりアンケートの実施や都市計画懇談会および市民連続講座の開催など、様々な試みを行ってきました。「調布まちづくりの会」は、市の呼びかけによるこれらの過程を経て、市民の有志により平成9年（1997年）1月に正式発足しました。後略、」となっています。これが母体となって成長し、今の調布まちづくりの会があるのです。写真は発足当時、市役所のロビーで話し合っていた様子です。



Q：現在いろいろな活動があるけれど、会の目的は？

A：現在の「調布まちづくりの会」は「まち会だより」に掲載されている様々な活動をしています。NPO法人ですから、定款もちゃんとあります。「特定非営利活動法人調布まちづくりの会定款」から目的をご紹介します。



（目的）第3条本法人は、調布市を中心として東京都内外に対し、市民と地方公共団体、企業との協働によるよりよい地域づくりを目指し、まちづくりに関する調査研究、企画、施策等の提案を通してまちづくりに関する諸活動・事業を行なうとともに、市民参加に必要な手法の研究・開発、市民活動に必要な情報収集・提供、及び情報社会の発展に寄与する活動を行ない、まちづくりに貢献することを目的とする

（上の写真は、景観コンテストという調布を再発見する2001年のイベントです。） 文責：鉄矢悦朗



「映画」をキーワードとして、調布のまちづくりにどう寄与できるかを考えている部会です。前号以降では、調布市が毎年8月行っている平和祈念事業の一環として、映画『月光の夏』上映会を、当会協賛による上映実行委員会を組成し開催しました。以下は上映会実施内容です。

実施日

平成18年8月17日(木)

14:00 18:30 2回上映

実施場所

調布市文化会館たづくり2F くすのきホール

入場者数

一般 827人 学生 22人 合計 849人

事業結果

昼の部は満席、夜の部も3分の2程度の入場者があった。

今回の上映会は、平成18年度調布市平和祈念事業に呼応して企画開催したものであるが、その結果多くの方の賛同が得られ、成功裡に終了する事ができた。

また映画に対する関心も強く、250通のアンケート投函があった。「映画のまち調布」して今後のまちづくりのファクターの一つとして映画に関する事業を積極的に考えていくべきと思う。

以下アンケート集計の結果を参照願いたい。

映画「月光の夏」上映会アンケート集計結果

映画上映会：2006年8月17日(木)

14:00 18:30 2回上映

調布市文化会館たづくり くすのきホール

入場者数：一般 827人 学生 22人

合計 849人

アンケート総数：250通(各項目集計は未記入,重複記入がある為、総数とは一致しない)

1. 属性

性別

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上	未記入	計
男	3	2	2	4	14	19	23	6	73
女	1	2	2	4	15	33	37	5	99
未記入		1	3	2	12	37	23		78
計	4	5	7	10	41	89	83	11	250

居住地

調布市内：136

市 外： 75 (八王子8 相模原1 町田3 多摩1 稲城4 府中9 国分寺1
 国立2 三鷹8 狛江7 横浜2 川崎3 世田谷5 杉並5 中野2
 新宿2 豊島2 目黒1 大田1 江東1)

2. この映画を何で知りましたか。

市報38 ぱれっと29 チラシ34 ポスター34 アサヒタウンズ8
 くろすとーく2 SHC2 調布ドットコム0 調布ネット1 知人・友人89
 たづくり20 グリーンホール10

3. 今日の映画はいかがだったでしょうか。

大変良い	良い	普通	やや不満	不満
183	34	9	1	0

感想：アンケート250通中、116人の方が感想を寄せて下さいました。

主な感想の要集約：

- ・大変感動した。このような映画会を毎年して下さい。(35)
- ・今の世の中の動きでベストの企画。(11)
- ・戦前の教育・人間観のむごさを感じた。有為な青年の死を無駄にしないで。後世に伝える事が大切。(14)
- ・戦争は不可。二度と繰り返してはならない。平和を大切にしたい。戦争を美化してはならない。(30)
- ・若い世代の人たちに見て貰いたい。若い人の参加が少ないのが残念。子供たちに伝える事が大事。(39)
- ・学校関係者に伝えて欲しい。学校の巡回上映会を。(8)
- ・聴覚障害者用の字幕があると良い。(1)

4. 会場、設備について

	良い	普通	悪い	コメント
音響	108	81	26	少し音が大き過ぎた
空調	112	79	8	少し寒かった
画面	71	81	17	壁に映像が映り、見にくかった
全体	108	53	1	

5. このような映画会は、「映画のまち調布」のまちづくりに役立つと思いますか。

とても思う	思う	思わない	どちらとも言えない
119	110	1	6

6. この映画会に協賛している、「NPO 法人調布まちづくりの会」について

この会は、まちの景観、環境の保全、バリアフリーなどの問題、おしゃべりサロン相互塾、映画のまちづくりなど市民交流の事業を行なっている会です。

良く知っている	聞いたことがある	知らない	参加してみたい	興味がない
38	94	90	10	4

集計結果の概要：

来場者では60、70歳台で70%近くを占め、やはり戦争当時の記憶のある人たちの参加者が多かった。アンケート感想でも述べられているように、若い世代の参加者が少なかったのは残念であった。特に小学校高学年から中高生が見てくれる事を期待して、公立小中学校28校にポスターを張らして頂いたが、参加者は22名に止まった。

PR面では知人・友人による口コミが一番多く、市外からの参加者も広範囲にわたり多く見られた。また映画が調布市のまちづくりに役立つかとの問いには、殆どの方がそう思っており、関心の高さが窺われる。

民・産・官協働の組織的な活動の拡大が望まれる所である。



報告：宇根直次

まち会裏情報 なぜ、10周年記念講演が森下か？



森下は、調布まちづくりの会の最も活動的な部会である「おしゃべりサロン相互塾」を牽引している。7年目となる「おしゃべりサロン相互塾」は、10月で81回目、延べ2242人の参加者である。日頃は、なかなか表に出ない森下。様々なイベントにおいても縁の下での力持ちのように、支え役となることが多い。しかし、近年のまち会の展開（2002年：うたごえサロン、2002年：午後のティーサロン、2004年：数学おあそびサロン、2005年：翔べ調布（イベント）、2005年：調布市民放送局など）は、森下の推進力によるものと言っても過言ではないだろう。まちづくりは、ハードとソフトが両輪といわれる。

都市計画マスタープランというハードのまちづくりからスタートしたまち会に、なくてはならぬ、ソフトのまちづくりの仕掛け人なのである。（森下の写る写真は少ない。右が森下） 文責：鉄矢

いままでの活動記録

1999年

- 3月～5月 景観分析を目的に概ね4地域(東・西・南・北)を分担して景観写真撮影ワークをした。
- 5月～8月 上記撮影したものを発表し、整理して「調布の景観チェックリスト」を作成。
これが「調布の景観要素整理表」の基礎となる。
- 8月～11月 受託事業「景観シンポジウム開催企画運営」契約し準備活動をはじめ。
- 11月21日 景観シンポジウム・みんなのワークショップ「景観1999」開催
(調布の景観を自然、歴史・文化、街並み、生活の視点から考えるワークショップとシンポジウム)



2000年

- 1月～3月 月に一回のペースで部会打合せ
- 4月1日 南エリア：多摩川住宅～せせらぎの散歩道～桜堤通～京王多摩川
- 4月23日 東エリア：つつじヶ丘駅～若葉町崖線～入間川～NTT学園～寺町通り～仙川駅周辺～仙川崖線～白百合学園～仙川
- 5月3日 北エリア：布田天神～武蔵野市場～野川～虎珀神社～禅寺丸の柿～祇園寺～城跡～深大寺
- 5月～6月 まちあるきの整理
- 7月25日 西エリア：飛田給駅～スポーツ施設～福祉施設～東京外大～武蔵野の森公園～野川公園
- 7月 東京都景観条例 国分寺崖線景観軸の学習
- 8月～12月 景観ガイドラインの材料作成
- 12月 受託事業「景観シンポジウム開催企画運営」契約する。



2001年

- 1月～3月 受託事業「景観シンポジウム開催企画運営」準備活動をする。
- 3月 景観シンポジウム・みんなのワークショップ「景観2001」開催
(市民が商店主、建築家など擬似的な立場でまちをみて景観の見え方を話し合うワークショップ)
- 4月～ 景観コンテスト開催準備はじまる。
- 8月～ 受託事業「景観ガイドライン策定調査」契約する。
(景観資源の抽出、市民の景観に対する関心度の整理、景観構造の把握、景観の特徴と課題の検討)
- 8月25～27日 景観コンテスト作品受付
- 8月29～9月2日 景観コンテスト作品展示
- 9月1日 景観コンテスト公開審査
- 9月～ みんなのワークショップ「景観2001秋」開催準備はじまる。
- 11月10日 みんなのワークショップ「景観2001秋」開催
(日頃景観の形成に大きな役割を果たしている方々のトークと参加者との自由なディスカッション)



2002年

- 3月 受託事業「景観ガイドライン策定調査」報告書提出。
9月～ 受託事業「景観ガイドライン策定調査」契約する。準備開始。
(調布の景観に対する意見集約をアンケート調査により行う。アンケート用紙回収及びインターネットによる意見収集。)



2003年

- 3月 受託事業「景観ガイドライン策定調査」報告書提出。

2005年

- 10月9日 南エリアまちあるき
コース：多摩川住宅～せせらぎの散歩道～府中崖線下～郷土博物館分館～へび山～布田6目土地区画整理地域
ポイント：2000年4月のまちあるきで見た景観と比較して集合住宅や一団地建売住宅の増加及び相対的に田畑の減少が見て取れた。
- 11月20日 中央北エリアまちあるき
コース：国領駅北口～鎌倉古道～調布警察署～第7中学校～中島橋～柴崎1丁目～光照寺～旧京王線軌道敷分譲地住宅～佐須街道～島田理化～柴崎2丁目～上ノ原公園～晃華学園～明大グラウンド～絵堂～青渭神社～深大寺
ポイント：南エリアと同様、マンション開発が随分増えている。街づくり条例施行前の駆け込み工事もあるように思える。



2006年

- いままではコースを設定して参加者全員が一緒に歩いて景観まちあるきをしたが今回からは午前中は定められたエリア内を参加者夫々が自由にまちあるき撮影をし、午後からは夫々撮影した画像を持ち寄って、なぜその景観を撮影したか発表することとした。
- 6月11日 中心市街地エリアのまちあるき
7月9日 下石原周辺エリアのまちあるき
8月2日 活動方針打合せ
8月20日 マトリックス表によるデータ整理と検証
9月20日 マトリックス表によるデータ整理と検証
10月28日 マトリックス表によるデータ整理と検証



これからの活動予定

- 「市民版景観ガイドライン」をつくり行政への提言をすることを目標におく。
「市民版景観ガイドライン」づくりのための活動をする。
- ・まちあるきをさらに実施する。
 - ・マトリックス表による、まちあるきのデータ整理と検証を行う。
 - ・景観マップ作りをする。
(例:グリーンマップ作成・調布図書館のまちの資料情報館との関連づけ)
 - ・景観要素別に具体的な建物や場所に対し市民による投票などにより良い景観を選定する。
 - ・調布市の都市計画マスタープラン再確認・再検討との関連付けについて検討する。
(例:調布市街づくり条例の地域別街づくり方針の策定への協働・独自の検討作業)

中心市街地のまちづくりが進むなか、調布市の景観について一緒に考えませんか。景観部会は月一度のペースでディスカッション、フィールドワークをおこなっています。どうぞご自由に参加してみてください。

報告：沖崎 剛

おしゃべりサロン 相互塾」は第79回の平和をテーマにした8月例会(調布市と共催)では、参加者が130人と過去最大の人数となりました。8月例会は定着しました。

おしゃべりサロン 相互塾」も3月から、7年目に入りました。10月を「教育を考える」として、毎年、調布市教育委員会との協働開催に向けスタートした。4月例会から会場に置いてあります「ご寄付」の箱には皆さんの好意によって、多くの資金を頂戴しています。相互塾関連の活動費(用紙、会場、資料、機材などの費用)に使わせていただいています。午後のティーサロン」も隔月開催が定着し、スタッフも充実し、好評を得ています。数学おあそびサロン」も飛田給の調布市青少年交流館に定着し、第6中学校と第8中学校の補習教室と授業にも入っています。また2人の先生が新しく参加されました。

他団体との交流の成果として、「調布市民放送局」の設立に参加し、昨年8月に発足し、ケーブルテレビジョンのJ:COMを通じて、4月より放送を開始しましたが、さらに10月からは、ストーリーング動画配信を始めました。市民放送局としては、画期的なことではないかと考えています。この活動には、中央大学の松野先生のご指導と、多数の市民の方々から寄付として活動資金を頂戴しています。

第78回 相互塾」: まんが 漫画からマンガ・MANGAへ～ストーリー漫画の足跡～」

畑中 純さん(漫画家)

7月31日、戦後のマンガ、それもストーリー漫画の歴史とも言えるお話をいただいた。手塚治虫は漫画を、映像的に扱うようになった。その後10歳若いトキワ荘世代の漫画家が多数輩出したが、団塊の世代の人達に受け入れられた。ちばてつや、つげ義春、さいとうたかおたちが「劇画」を作った。コミックは表現の範囲を広げた。水木しげる、白土三平、つげ義春がいて、つげ義春は、昭和12年生まれで、巨匠と言える。この人は調布の人だが、調布から出ない人で、畑中さんとは



交流があるそうです。すごく売れる人はいるが、2~3万部の方は仕事なくなっている。畑中さんもそうですが、絶頂のときの仕事は残っていない。だが、残しておこうとすると衰退の状態にあると言える。たつみよひろは、劇画の言葉を作った。畑中さんの作品が、9月にはフランス、スイスにて出版されることになった。日本の漫画は、ひとつの産業にまで発展し、海外では漫画の本は、日本のものと同じになって来ている。本の開き方は、右からにすると良いそうです。漫画の最近の傾向としては、大手は原作物でやっている。趣味娯楽で売れているのは、日本ぐらいで、台湾、中国は日本の雑誌に来たいと言っている。畑中さんの最近の読書傾向にまで及び、フィクションは避け、評論やエッセイに傾いている。漫画には一度、区



切りが付いたので、切り開いていく方向としては、仕掛けのない自伝的漫画を描き、理想郷を目指していくそうです。また、今は版画をやっていて、宮沢賢治の作品を描いている。うめずかずお、立花隆、谷崎潤一郎にまで話題が広がり、楽しい話になりました。

第79回 相互塾」：辛酸をなめた戦後引揚者の体験」

池田精孝さん、河村利子さん（引き揚げ体験者） 共催 調布市（平和の礎 2006展）

8月5日、今年は、事前準備も順調に進み、また池田さんと言う、ここ数十年にわたって、中国東北部の日本人の開拓村に「慰霊」の旅を続けておられる方を迎えたことが、東京新聞が大きく扱ってくれ、毎日新聞、アサヒタウンズも案内記事を書いていただき、参加者が過去最大になった。130人の多くの方が会場に来ていただきました。新聞に掲載された後に、問合せが例年より多く、そのほとんどが満蒙引き揚げ体験者で、その中のお1人からは自分の子どもを殺せと言われて銃を持たされたこと、撃てなくてそのまま連れていたが、日本に帰るまでに亡くしてしまったことを聞きました。池田さん、河村さんと同様の悲惨なことでした。池田さんは関東軍の戦後の行動の理不尽さについて触れられたが、開拓団を守る力は既に失せていたようです。それからの日本人の日本へ向けた逃避行は悲惨なもので、飢え・寒さ・伝染病・略奪・集団自決などの苦勞を受けながら半数近くの人が祖国の土を踏むことなく死んで行ったそうです。河村さんのお話では、戦後日本へ帰ってくる途中の状況を、河村さん自筆の絵で示され、実に味わい深いものがありました。特に走る貨車の窓から死んだ赤ん坊を捨てるお母さんの絵は目に涙を覚えました。非常時とはいえ、悲しいことです。この日は、同様の体験をした人が多く参加されていたので、熱心に質問がありました。そして、終わった後に、二人の語り手の回りに人の集まりがで、新しい交流が生まれていました。



お母さんの絵は目に涙を覚えました。非常時とはいえ、悲しいことです。この日は、同様の体験をした人が多く参加されていたので、熱心に質問がありました。そして、終わった後に、二人の語り手の回りに人の集まりがで、新しい交流が生まれていました。



第80回 相互塾」：「人生は出会いのドラマ、そして出会いはいつもミステリアス」中島 力さん

(元テレビ朝日制作局長、日本ペンクラブ会員)

9月25日、椎名麟三さんの小説を読み、触発されて作家を目指し、指宿から上京して、椎名麟三さんと梅崎春生さんにご会うことが出来た冒険心の旺盛さを感じさせる青年時代から、TBSに入り、プロデューサーの岩崎嘉一さんに出会い、その後の人生に大きな影響を受けられたそうです。その後、テレビ朝日の前身の日本教育テレビに移られ、本格的な番組制作に携わるようになったそうです。『失と妻の絆』という番組の担当を皮切りに、いろいろな人との出会いが始まった。三島由紀夫、左ト全、岡田嘉子、吉田正のエピソード



があって、池波正太郎の鬼平犯科帳での主役を松本幸四郎に決める逸話。良く知られている人たちの夫婦の絆をテーマにした長寿番組での貴重な話、加東大介さんの結婚式、黒柳徹子さんとの出会い(徹子の部屋の始まり)、石原裕次郎さんの人間としての大きさ、有島一郎さんと伴淳三郎さんとの友情の厚さ、



「あしたまたね」と言って別れてそのまま亡くなられた向田邦子さんの話など、終りがいい心温まる話が一杯でした。ドキュメンタリーが専門でしたので、取材の心得を聞きましたが、ケースバイケースだとのことでしたが、すべての企画は、取材から始まり、取材で決まるとのことでした。

第81回 相互塾」：「子どものかかえる問題」村上剛明さん (調布市教育相談所教育相談担当主幹)

後援 調布市教育委員会 (特集 教育を考える)

10月30日、教育相談所での相談件数は月200件程度で、昨年より増えているが、現在は高止まりになっている。相談の形としては、来所相談、電話・ファックス相談、就学相談がある。来所相談は、不登校の場合が圧倒的に多く、電話・ファックス相談でも、不登校が多いが、親の養育不安が負けずに多くなっている。不登校が多い背景には軽度発達障害から来ている場合がある。現在の相談所が決して行き易さという点で不十分と思っている。相談所には専門家として臨床心理士がいて、対応している。就学相談では障害のある子どもを通常クラスに進学するかどうかの相談を受ける。最終決断はもちろん親御さんです。ただ、その後の継続相談も対応したいと考えておられるそうです。進学相談の専門家が1人増やされたそうです。最近のケーススタディーとして、特異なお母さんの例を3件、話をされました。妊娠中にお医者さんの診断を受けていなかった人、相談所の梯子をしていた人、などです。また、勝ち組、負け組という風潮が、親の過度の期待があるのか、子どもが居場所を失っているように思われる。



体験として、3人の息子さんの子育てについてお話になり、親しみを感じずる場になりました。最後に軽度発達障害について触れられ、脳の中のほんの一部が壊れている場合で、読み書き算盤のどれかが欠け

ている場合とか、気が散りやすいなどの注意欠陥の場合とか、高機能自閉症、アスペルガー症候群により集団生活になじまないときがある場合とかです。重要なことは、それぞれ状況が違うため、個別の対応が必要だということです。最後に「問題をかかえて、ひとりで苦しまないで」、相談所に来てくださいと、纏められました。



「数学おあそびサロン」

2004年1月にスタートし、現在は飛田給の調布市青少年交流館にて毎月第4日曜午前10時～12時に開いています。また、第六中学校と第八中学校の2校の補習講習に協力しています。「数学おあそびサロン」の先生も2名増え、強くなりました。数援（数学支援）隊の実現も現実味を帯びてきました。



調布市青少年交流館

「数学おあそびサロン」の会員（子どもたち）としては、事情があって、募集は控えていますので、2人に減りました。しかし、今年は、第6中学校と第8中学校への補習学習に協力できるようになったこと、ビデオ鑑賞による楽しい数学への展開などによって、活動の範囲は拡大しました。また、市の教育委員会の紹介で、如水会（一橋大同窓会）調布支部の世話役の方とも交流が始まり、コミュニティ・スクールへの展開に向けて、第8中学校の校長先生への紹介もしました。会員（子どもたち）の増員は調布まちづくりの会員

の皆さんの口コミにより増えることを願っています。青少年交流館に近い調布の中学校にも交流したいと考えています。

会場の青少年交流館の多目的室には、薄型の大型テレビが設置されており、ビデオを利用した学習もでき、幅の広い交流もできます。そして、おあそびサロンの名に相応しいこと、科学系の博物館の見学も検討していきます。

第6中学校と第8中学校の補習学習に関しては、第6中では「ステップアップ講習」に、第8中では「質問タイム」教室に協力しています。教室に来てくれる子どもたちが、数学の基礎を身に付けてくれれば願っています。第6中の「ステップアップ講習」は、調布市でのモデル校になっていて、副校長先生から、最近、その効果が見えてきたと聞きました。

両中学校で、数学の授業に入ってチームティーチングの協力をすることになっていましたが、先送りになりました。

新しく2名の先生が参加されました。

青少年交流館での先生グループに近藤さんが参加されました。そして、第8中学校での「質問タイム」には、如水会の吉川さんが参加されています。全体としても先生グループは、かなりの人数になりましたので、「数援隊」の実現に近づいてきて、心強い形になってきました。

「午後のティーサロン」

「午後のティーサロン」は6月の第1回から5年目に入り、隔月で開催することにしました。

第19回までの延べ参加人数は、409人となりました。

岩井衛さんが亡くなりました。「午後のティーサロン」の生みの親であり、このサロンの中心であった岩井衛さんが6月に亡くなりました。8月の「音楽家モーリス・ジャールとデヴィッド・リンの世界」は、岩井さんが企画され、途中まで手がけておられました。8月のサロンを岩井さんの追悼の会とし、参加者全員で黙祷し、ご冥福を祈りました。

協力者募集

英国、ロンドン大学パークベック校博士課程に在籍し、戦後日本におけるアメリカ映画について研究しておられる寺沢香菜子（三鷹市在住）から「午後のティーサロン」の参加者で60歳以上の方々に昭和20年代、30年代頃の映画体験についてお話を伺うことが出来ないかとの協力の依頼がありました。とあえず、アンケート用紙による調査とし、数人の方をお願いしました。この調査にご協力いただける方、または当時の外国映画のファンだった女性をご存知の方はご協力をお願いします。

第18回、8月27日「デヴィッド・リンとモーリス・ジャールの世界」

イギリス映画の名匠D・リンの三大長編「アラビアのロレンス」、「ドクトル・ジバゴ」、「ライアの娘」は、公開時にいずれも話題を呼んだ名作です。また、これらの作品の音楽を担当し、それぞれでアカデミー音楽賞を受賞したM・ジャールもスケールの大きな映像にマッチしたメロディーをつけています。荒涼とした砂漠の美しさ、ロシアの広大で清冽な雪の風景、そして荒れ狂う北海の海辺など、自然の壮大な映像と名曲を堪能できるはずでしたが、準備不測のためパソコンの映像をプロジェクターで写し出せず、最後の「アラビアのロレンス」を中止としまい、参加された方々には大変失礼してしまいました。

第19回、10月29日「懐かしのスクリーン・ミュージック第4弾」

数々の映画音楽の名曲を作った4人の作曲家ビクター・ヤング、モーリス・ジャール、ヘンリー・マンシーニ、フランシス・レイのアカデミー作曲賞受賞作品からそれぞれ「80日間世界一周」、「アラビアのロレンス」、「ティファニーで朝食を」、「ある愛の詩」を選び、美しい風景をバックにして流れるあの懐かしいメロディー。そして英国バレー映画の傑作「赤い靴」モイラ・シャーラーの素晴らしい舞台は十分に楽しめたのではと思います。

しかし、参加者最低を記録し、この課題を今後検討していきます。



新しいサロン創りへの試み

調布まちかど博物館(エコミュージアム)新しいサロンを継続して検討しています。

景観部会の成果を活用し、エコミュージアムの発想で、調布のお宝を探り、意外なコレクションを見つけ、それらの連携をとり Mapとしても表現できることを考えます。また、広場や雑木林なども創作者と地域の人たちとの自由な表現の場に展開していくことを進めます。広く人材を求め、行政も巻き込んで実現して行きたいと考えています。会員を始め、広く関心のある方の参加、協力をお願いします。

他団体との交流として、相互塾」のメンバーが、調布市民放送局」の活動に参加

調布市民放送局」(代表は当会会員の森下政信)は、昨年8月18日に中央大学の松野良一教授の指導を受けて発足しました。ケーブルテレビジョンJ:COMを通じ、1月22日に、パイロット番組を放送するに際して、一般紙6紙の地方版、そして、NHK総合テレビの首都圏ネットワークにて大きく報道していただきました。4月からは本放送を無事始めることができました。毎月1週間、毎日15分の番組を放送していましたが、10月からは、隔週にて、毎日5分の番組を放送しています。8月以降の放送番組は、次の通りです。10月より情報番組として、地域で活動されているボランティアグループなどのイベント情報や紹介もしています。

- 8月 わんぱく相撲 とかいなか
- 9月 調布は「調」布」? 調布の奥様方の素敵な活動
- 10月 ステキな演劇に見せられた調布のおじさん 他
ステキな幼稚園児に人気のおじさん 他

さらに、10月からは、調布市民放送局のホームページより、ストリーミング動画配信を始めました。JCOMの放送と同時に観賞できます。ご愛顧をお願いします。

NPO団体との交流

「NPO法人 市民まちづくり会議・むさしの」との交流会



設立経緯が似ていることや街づくり条例について調査研究の活動をしていることから調布市の街づくり条例について話し合いをしたいと「NPO法人 市民まちづくり会議・むさしの」の皆さんから依頼を頂いて交流会が実現しました。参加者は大妻女子大学の学生4名の参加もあり、総参加数18名でした。

交流会では調布市街づくり条例について調布市の職員による出前講座も盛り込み、有意義な交流会になりました。終わりの後は近くの居酒屋で懇親会もあり、熱のこもったまちづくり談義が飛び交いあいました。

インフォメーション

おしゃべりサロン相互塾

- 11 / 27 (月) 19:00~21:00 調布市総合福祉センター4階視聴覚室
「緑の循環から始まる住環境」 語り手：内山信一さん(遠州屋材木店 代表取締役)
12 / 18 (月) 19:00~21:00 調布市総合福祉センター4階視聴覚室
「映画『マリーテレサ』を語る」 語り手：千葉茂樹さん(日本映画学校理事教育局長)

まちのバリアフリー部会

- 12 / 9 (土) 15:00~17:00 調布市文化会館たづくり11F みんなの広場
2006年度第1回通常総会
12 / 10 (日) 16:30~17:30 調布市文化会館たづくり11階 1102会議室
調布まちづくりの会10周年記念講演「新しい居場所の創造に挑戦する～私のまちづくり入門～」
12 / 10 (日) 18:30~19:30 調布市文化会館たづくり12階 大会議室

調布まちづくりの会はこんな会です。

1996年、「市民の手でまちづくりを」という思いから都市計画マスタープランづくりに参加するために集まった市民がワークショップやシンポジウム、まち歩きなどを行っては議論を積み重ね、1997年1月に市民と行政により調布まちづくりの会を発足させ、他に例がないほど進んだ市民参加と行政の協働により、1998年3月、調布市都市計画マスタープラン原案を作り上げました。

この原案の完成をもって会はひとつの役割を終えましたが、そこに掲げたまちづくりの理念である「住み続けたい緑につつまれるまち調布」の実現や合意形成、市民参加の推進を図るため、1998年10月に新生「調布まちづくりの会」を再発足し活動を継続してきました。さらに2000年3月に特定非営利活動法人の認証(東京都)を得、同年4月に特定非営利法人調布まちづくりの会を設立しました。

会の活動は、景観、統廃合跡校舎有効利用、多世代交流、バリアフリー、地域通貨など自主テーマや市が策定している計画などまちづくりに関するいくつかのテーマを選び、調査研究を行いながら市民への啓発、行政への施策提言、多方面への情報提供、交流などの活動を行っています。

また、2003年6月、当会の一連のまちづくり活動に対し第1回日本都市計画家協会賞佳作を受賞しました。



入会案内：いつでも、どなたでも入会できます。

年会費	正会員(個人)	2,000円
	正会員(団体)	5,000円
	賛助会員(個人)	1,000円
	賛助会員(団体)	3,000円

郵便払込口座 調布まちづくりの会
00150-1-136749

編集後記

今号は、鉄矢の編集となりました。10周年というプレッシャーの中、メンバーの支援のおかげで発行にこぎつくことができました。私事ですが、最近では仕事に追われ、まち会の活動にも以前のように参加できず、ちょっと敷居が高くなってしまいそうなところでした。しかし、まちづくりの会は、時々参加でも、大丈夫。敷居を高くしているのは、本人の気分だけ。会うこと、話すことで、また敷居はすぐ低くなります。
Nov. '06 鉄矢